教職員情報

2006年6月

連載第3回

京大植物園観察会

■第39回　観察会のお知らせ
日時：6月15日（木）12：05～12：55
『植物園のきのこたち』 植物園前に集合して下さい。

第37回観察会レポート　2006年4月14日（金）12：05～55　曇り
テーマ「タンポポからさぐる生物の分布」　　ガイド：西田 隆義（京都大学農学部昆虫生態学研究室）

ガイドの説明を聞く参加者▲

最近、在来のカンサイタンポポが急速に減ってそのかわりに外来のセイヨウタンポポが分布を拡大していると言われる。京大構内においてはどうだろうか？今回の観察会では、京大の北部構内でタンポポの分布を調べ、植物園の特色を確認してもらうことを目的とした。北部構内の多くの場所では、すでにセイヨウタンポポが圧倒的でカンサイタンポポはわずかしか分布していない。これに対して、植物園内ではカンサイタンポポがほとんどで、セイヨウタンポポはわずかに見つかるだけだった。なぜカンサイタンポポとセイヨウタンポポが共存しないのかについては、これまで多くの研究があるが未だにその理由ははっきりとしていない。この観察会では、両種が共存できない理由として「昆虫の花粉媒介を通じた生殖干渉」をとりあげて、他の説と比較してその可能性について説明した。

▲どっちのタンポポ？

最近の研究によれば、これまでセイヨウタンポポとみなされてきたもののほとんどはカンサイタンポポとの雑種で、父親はセイヨウタンポポ、母親はカンサイタンポポであることが分かっている。カンサイタンポポのめしべにセイヨウタンポポの花粉がつくとほとんどのたねは実らず死んでしまう。しかしほんの一部の種は結実し、雑種ができる。ほとんどの雑種のたねが死んでしまった空き地に、あだ花のように雑種タンポポがはびこるのだ。花をぼんやり眺めていると、いかにも雑種タンポポはたくましく生存力が強いようにみえるけれども実はそれは錯覚であり、カンサイタンポポの種子が実らないことの結果にすぎないと思われる。

観察会当日はまだタンポポの開花初期でたくさんの花を見ることはできなかったが、両種がほんの一部しか重複して分布していないこと、植物園内ではカンサイタンポポが圧倒的に多いことは確認できた。また、京大構内でカンサイタンポポがちらほら残っている場所は植物園の近くが多く、植物園がカンサイタンポポの種子の供給源になっている可能性があった。植物園は小さいけれど、カンサイタンポポにとっては大切な生息場所であることが改めて確認できた。

☆植物フェノロジーリスト

開花：カンサイタンポポ、セイヨウタンポポ（？）、ハナニラ、ヤブニンジン、ハナダイコン、スミレ、タチツボスミレ、ナズナ、ムラサキサギゴケ、ホソバオモダカ、バイモ、カラスノエンドウ、ムラサキケマン、シャガ、ジゴクノカマノフタ（キランソウ）、クサイチゴ、ヤマアイ、ホウチャクソウ、ムラサキカタバミ、ニチニチソウ、ハルジオン（以上、草本）、ボケ、ユキヤナギ、サクラ（シダレザクラ、エドヒガン、ソメイヨシノ）、アオキ、ニワトコ、ハナノキ、ヤマブキ（一重、八重）、ゲンペイシダレモモ、ツバキ、ウリカエデ、シャクナゲモドキ、イワガサ、ロウアガキ（以上、木本）
結実：キンカン、センダン、ニワトコ、アケボノスギ（メタセコイア）、サクラ、フジ
きのこ：アミガサタケ

フェノロジー・レポート：大石高典（京都大学理学研究科生物科学専攻動物学系）

京大植物園を考える会　http://members.at.infoseek.co.jp/bgarden/
京大植物園のブログができましたので覗いてみてください。
京大植物園TODAY　（ http://blog.goo.ne.jp/bgfanclub/ ）

｜ひとつまえにもどる｜

Copyright (C) SCOOP. NET Kyoto-Univ CO-OP. All Rights Reserved..